

多くの支援者とともに歩み、さら 新日鉄の音楽メセナ活動—紀尾井

1995年にオープンした紀尾井ホールは、本年5月16日に行われた「紀尾井シンフォニエッタ東京第64回定期演奏会」で、来館者200万人を達成した。これはホールを運営する(財)新日鉄文化財団の地道な活動実績と、ホールに足を運んでいただいた多くの音楽ファン、サポート会員などの支援があっ

半世紀にわたり音楽活動を支援

新日鉄は、鉄鋼業として産業基盤の構築などを通じて日本経済の発展を支えてきたが、社会貢献活動の一環として、音楽文化の領域においても今日までおよそ半世紀にわたり支援を続けている。この活動は、企業は社会を構成する一員として、「社会と共生し、社会から信頼される存在でなければならない」という理念のもとで実施されており、1955年までさかのぼる。この年、新日鉄はクラシックコンサートのラジオ放送「フジセイテツコンサート」(後の「新日鉄コンサート」)の提供を開始した。戦後まもない日本では、経済大国への階段を駆け上る過程で、物質的な豊かさとは別の、国民の心の豊かさを満たす芸術文化の一層の振興が求められていた。その後も「新日鉄音楽賞」の創設や、音楽活動の拠点となるコンサートホール「紀尾井ホール」の設立などを通じて音楽メセナ活動を継続してきた。

個性際立つ2つの紀尾井ホール

1995年4月2日、新日鉄の創立20周年の記念事業として、音楽活動の拠点となる「紀尾井ホール」がオープンし

た。同ホールは、紀尾井ホール(800席、クラシックなど洋楽専用)と紀尾井小ホール(250席、邦楽専用)で構成されている(写真1、2)。

紀尾井ホールは、室内オーケストラ演奏に適した音響空間を創造するため、残響時間が最も心地よいとされる1.8秒(満席時)に計算されており、その優れた音響効果は出演者、来館者から高い評価を得ている。また、ホールの形状はヨーロッパの伝統的スタイルであるシューボックス形式(※1)を採用している。

紀尾井小ホールは、音響や装備を完全に邦楽演奏向けに設計したもので、演劇的設備が少なく、多目的用に設計されたものではない日本初の邦楽専用ホールとして注目を集め、高い評価を得ている。

社会とともに地域とともに、 積極的に活動を展開する新日鉄文化財団

また、同じ創立20周年の記念事業として、この紀尾井ホールを拠点とする(財)新日鉄文化財団(以下、財団)が、新日鉄およびグループ会社などの出資により設立され、音楽家の育成、公演の開催、優れた音楽活動に対する支援などを展開している。



写真1 紀尾井ホール



写真2 紀尾井小ホールでの主催公演より
「江戸音楽の巨匠たち(河東節)」2007年11月25日

※1 シューボックス形式：靴箱のような長方形のコンサートホールを指す。ホール両側面の反射音が多く、豊かな響きを生み出すためクラシック音楽に最も適しているとされている。

なるステージへと発展する ホールが来館者数200万人達成！

て達成されたものだ。今号では新日鉄が長年取り組んできた音楽メセナ活動を振り返り、常に意欲的な企画で音楽文化の価値向上に努めている(財)新日鉄文化財団の取り組みを紹介するとともに、ますます充実する紀尾井ホールの今後を展望する。



紀尾井ホール

財団設立のテーマは「発掘・創造・育成・交流」。このテーマに基づき、紀尾井ホールの主催公演の中核を担う首都圏初の室内オーケストラ、「紀尾井シンフォニエッタ東京」の定期公演やクラシック音楽のリサイタル、また小ホールにおける日本伝統音楽の公演、さらには各種公開レッスンなどの開催を通じ、日本の音楽文化のさらなる発展に寄与することを目的に活動している。

「発掘」

日本の音楽文化の発展ならびに将来を期待される音楽家の支援を目的とした「新日鉄音楽賞」は、新日鉄創立20周年とラジオ番組「新日鉄コンサート」放送35周年を記念して設けられた。将来を期待される若手アーティストに贈られる「フレッシュアーティスト賞」を受賞した演奏家の多くは、現在、世界の第一線で演奏活動を展開している(2008年の新日鉄音楽賞についてはP6)。

また、紀尾井ホールを舞台に「紀尾井ニュー・アーティスト・シリーズ」を年4回実施。若手演奏家にリサイタルの機会を提供している。

「創造」

主催公演において、洋楽・邦楽ともに話題性のある新しい試みの公演を展開している。

洋楽に関しては、2007年から室内楽ホールの特徴を活かした「紀尾井の室内楽」シリーズを実施。財団の積極的な招致活動により、世界的に有名でも来日する機会の少ない演奏家の公演が身近に楽しめるようになった。これまでにペーター・レーゼ氏(ピアノ)、フェルメール・クアルテット、デジレ・ランカトーレ氏(ソプラノ)などの演奏家が紀尾井ホールに出演し、その完成度の高い演奏が絶賛された。30年ぶりのリサイタル公演で、ハイドンやベートーヴェンのピアノソナタを演奏したレーゼ氏のリサイタルは、雑誌『音楽の友』(音楽之友社)の2007年のベスト・コンサートの一つに選ばれた。フェルメール・クアルテットは、自らの引退ツアーで、以前出演した紀尾井ホールのステージに立つことを熱望し、公演が実現した。

邦楽では、若年層が日本の伝統音楽に触れる機会が激減している現状を踏まえ、邦楽をよりわかりやすく親しみやすい存在として感じてもらえるように、従来とは異なる視点でのプログラムを提供している。

例えば、2007年からの3年計画で実施されているシリーズ「江戸音楽の巨匠たち」は、竹本義太夫ら江戸音楽の創始者の軌跡を、その人物像、時代背景、事件などを織り込んで浮き彫りにする演出になっており、邦楽公演の新たなスタイルとして話題を集めている。

音楽の本質を追求し、ヨーロッパ的なセンスを持つ紀尾井シンフォニエッタ東京

● ヴァイオリニスト ラファエル・オレグ氏

共演のたびに紀尾井シンフォニエッタ東京が好きになります。北海道ツアーを通じて、メンバーの積極性と高いレベルの演奏を維持する力に驚きました。彼らの音楽家魂は、合奏の基本的なスキルを超えて音楽の意味を追求します。指揮者である尾高忠明さんの力によると同時に、メンバー個々が目標を見据えているからです。それはエンターテインメントを超えた、哲学的・人間的な資質です。

紀尾井シンフォニエッタ東京はいい意味でヨーロッパ的です。解釈を“その場”で自発的に変える力と、スタイルに対するセンスという点においてです。彼らとまた共演できることを願ってやみません。





写真3 「女流義太夫の新たな世界 良弁杉由来〜二月堂の段」2008年2月25・26日
左から吉田文雀氏、吉田和生氏、竹本駒之助氏、鶴澤津賀寿氏



写真4 2005年、「ドレスデン音楽祭」に出演した
紀尾井シンフォニエッタ東京

また本年2月には、「女流義太夫の新たな世界 良弁杉由来〜二月堂の段」が大きな話題を呼んだ(写真3)。これは女流義太夫の人間国宝竹本駒之助氏と、文楽人形の人間国宝吉田文雀氏が実に50年ぶりの共演を紀尾井小ホールで果たしたもので、新聞各紙やテレビで報道された。

「育成」

紀尾井ホールとともに誕生した紀尾井シンフォニエッタ東京も、この数年でさらに円熟味を増してきた。

2005年に「ドレスデン音楽祭」に出演(写真4)。音楽祭付きオーケストラとしての名誉を担いつつ、ドレスデン州立歌劇場、マイセンドームなどの各会場で見事な演奏を披露し、その名を世界に深く印象付けた。

メンバーそれぞれがソリストとして十分な実力を備える紀尾井シンフォニエッタ東京の演奏を楽しみにされる聴衆が増えており、「客席が7割埋まれば興業的には成功」と言

われるクラシック演奏会において、年5回紀尾井ホールで開かれる定期演奏会は、常に満席で好評を得ている。

「交流」

定期演奏会以外にも、紀尾井シンフォニエッタ東京は全国各地で地方公演を開催し、来場者や地域の人たちとの交流を図っている。

2006年には指揮者でチェリストのマリオ・ブルネロ氏を迎えた岩手公演を成功させ、演奏会と同時に地元の小中高生や市民を招いた公開ゲネプロ(※2)を行い、訪れた生徒たちに楽器を指導する特別レッスンを行った。本年6月にも紋別、室蘭、札幌、函館の4カ所を回る北海道公演を実施し、同様に行われた公開ゲネプロや特別レッスンで来場者との交流を深めた(写真5、6)。

さらに国内で行われる取り組みとして、いずみホール(大阪)とさまざまな交流を実現。両ホールのレジデントオーケ

新日鉄の情熱で、伝統文化の発展のための活動継続を

● 人形浄瑠璃文楽太夫 人間国宝 竹本 住大夫氏

新日鉄は歴代の経営者が邦楽に馴染み情熱を持っておられました。私はそのような新日鉄の邦楽に対する情熱が紀尾井ホールにも表われていると思っており、おかげさまで『住大夫三夜』を三年間無事に務めさせていただきました。紀尾井小ホールはお客様と舞台が近くて気持ちのいいホールです。これからも日本の伝統文化の発展のために、ぜひ新日鉄文化財団の活動を続けていただきたいと思います。観客数を増やすには大変な努力が必要ですが、スタッフの皆さんも頑張ってください。私たちが勉強に励み、良い舞台を勤めていくよう努力をしております。



良い雰囲気のホテルで、他に見られない独自の企画を

● 常磐津節浄瑠璃 人間国宝 常磐津 一巴太夫氏

私は1995年に人間国宝になり、同じ年、紀尾井ホールの柿落しに出演しました。また、この小ホールでの録音で文化庁芸術祭レコード部門大賞もいただき、とても思い出深いホールです。小ホールは雰囲気が良く、企画面でも他に見られない独自の公演を実施しており、邦楽愛好者の裾野の拡大に貢献しております。私たちも、より多くの方に楽しんでいただけるようわかりやすく良い演奏を心掛けていきます。日本でも数少ない邦楽専用ホールを運営している新日鉄文化財団の一層のご健闘を期待しています。



※2 ゲネプロ：ゲネラルプローベ(General probe〔独〕)の略。舞台上で本番の進行通りに行われる最終確認のリハーサル(通し稽古)のこと。



写真5 紀尾井シンフォニエッタ東京 北海道公演の様子



写真6 室蘭での特別レッスンの様子

ストラによる相互公演を行うなど活動の輪を広げている。

良質な企画を提供して 日本のリーディング・ホールへ

財団の積極的な活動展開が実り、主催公演の多くでチケットの完売が目立つようになった。「紀尾井シンフォニエッタ東京定期会員」(レジデントメンバー)は約700名(2002年)から現在1,050名に増え、客席の約70%は定期会員で占められている。チケットの優先予約や割引などの特典が受けられる「紀尾井友の会会員」は約1,100名(2002年)から現在1,550名に増えた。また、紀尾井ホールへの支援を目的とした「紀尾井ホールサポートシステム」は、法人会員108口、個人会員330口の支援を得ている。

景気低迷時には財政基盤の縮小を迫られた時期もあったが、新日鉄およびグループ企業の支援により財団はその危

機を乗り越えてきた。(財)新日鉄文化財団事務局長の町田龍一氏は次のように語る。

「これからも演奏家、サポート会員そしてお客様の期待に応えられるよう、さらに充実した企画・運営に向けて取り組んでいきます」

紀尾井シンフォニエッタ東京

は、2009年にブルネロ氏指揮によるイタリア・スペイン公演を計画しており、この機会を活かし、世界の主要音楽祭への出演を目指していく。また、新日鉄と戦略的提携を結ぶPOSCOとの日韓交流の取り組みとして、韓国公演を予定している。一方、紀尾井ホールは、2009年から3年に一度開催されるヴィオラの国際コンクールの会場となることが決定しており、世界から訪れる参加者、審査員たちの交流の場となる。



(財)新日鉄文化財団
事務局長

町田 龍一 氏

高い集中力で作品の求める音を実現できるオーケストラ

● 指揮者・ヴァイオリニスト ライナー・ホーネック氏

紀尾井シンフォニエッタ東京のメンバーの集中力は非常に高く、全員で素晴らしいコンサートにしようという想いが伝わってきました。シューベルトの音楽は決して簡単ではなく、特に響きを作るのが難しいのですが、彼らはそれにしっかりと応えてくれたと思います。

また紀尾井ホールの音響も素晴らしく、シューベルトの音楽を作るのにぴったりでした。紀尾井ホールで皆さんと演奏できたことは、私にとって、とても大きな喜びです。また皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。



© 池本さやか

創造的な雰囲気溢れるホール

● ヴィオリスト 今井 信子氏

紀尾井ホールで演奏していると、まるで古い教会にいるような錯覚に陥ります。音響が良いだけでなく、教会にいるような敬けんで真摯な気持ちになります。音楽家としての初心に返ることができるのです。

そしてスタッフの方々の惜しみない協力にはいつも勇気づけられます。私たち演奏家も、より良い演奏をしてそれに応えようとする、創造的な雰囲気がホールには溢れています。1本の木のごとく、素晴らしいスタッフの皆さんがホールという幹をしっかりと支えているからこそ、「ヴィオラスペース」や「国際ヴィオラ・コンクール」など枝葉となるさまざまな企画が、彼らに支えられ育っていくことができるのだと思います。



© Marco Borggreve

邦楽では、日本の伝統芸能を継承し普及に努める企画を実施していく。

「若い世代へ邦楽の魅力、素晴らしさを伝えるワークショップ的な企画を現在考案中です。同時に次代を担う若い邦楽演奏家に焦点を当てた公演企画を考えていきます」(町田氏)。

現在、多数の音楽ホールがひしめく東京にあって、紀尾

井ホールは常に良質で他のホールには見られない特徴を備えた企画を発信していくことに注力している。

「やはり、たくさんのお客様でにぎわってこそ価値のある公演です。私たちは時代の変化とお客様の求めるものをうまくミックスさせ、常ににぎわいのある、他から注目されるリーディング・ホールを目指していきます」(町田氏)。

皇后陛下、皇太子殿下が紀尾井ホールにご臨席

紀尾井ホールには、天皇、皇后両陛下や皇太子殿下もご臨席の機会が多く、これまでに、皇室の紀尾井ホールご来臨は59回にのぼる。最近では5月21日に「別府アルゲリッチ音楽祭 第10回記念公演 in 東京 室内楽コンサート」に皇后陛下が、5月27日の「ヴィオラスペース2008 vol.17」と5月30日の「2008年日伯交流年記念 アントニオ・メネセス チェロ・リサイタル」に皇太子殿下がご臨席された。



別府アルゲリッチ音楽祭 第10回記念公演 in 東京 室内楽コンサートにご臨席の皇后陛下



チェロ・リサイタルにご臨席の皇太子殿下。左隣はアンドレ・アマード駐日ブラジル大使

別府アルゲリッチ音楽祭 第10回記念公演 in 東京 室内楽コンサート

大分県別府市で毎年行われる「別府アルゲリッチ音楽祭」が第10回を迎え、その節目を記念する室内楽コンサートが、5月21日、紀尾井ホールで行われた。

(財)新日鉄文化財団の関澤秀哲専務理事(新日鉄副社長)

の案内でご着席された皇后陛下は、世界屈指のピアニストマルタ・アルゲリッチ氏とチェリストのミッシェル・マイスキー氏による『チェロ・ソナタ イ短調』など情熱的な演奏を聴衆とともに楽しまれた。

ヴィオラスペース 2008 vol.17 ((財)新日鉄文化財団およびテレビマンユニオン共同主催)

「ヴィオラスペース」は、世界的ヴィオラ奏者の今井信子氏を中心に、これまで独奏楽器として取り上げられることが少なかったヴィオラの魅力を世界へ向けて発信する企画として、1992年にスタートした。2003年からは、主催の一翼を担っていたカザルスホールに代わり、紀尾井ホールへと活動の場が移った。

第17回目を迎えた今回は、5月27日の第一夜を「ヴィオラの妙なる響き」、28日の第二夜を「ヴィオラ協奏曲の饗宴」と題し、ヴィオラとオーケストラの2つの視点からプログラムを構成した。今回もヴィオラスペースにご臨席された皇太子殿下は、ヴィオラ独自の響きを、無伴奏から八重奏までの多彩な組み合わせで楽しまれた。

2008年日伯交流年記念 アントニオ・メネセス チェロ・リサイタル

1908年6月18日に165世帯の最初の日本人移住者を乗せた汽船「笠戸丸」がブラジルのサントス港に到着してから100周年を迎えた2008年を、ブラジルと日本の両政府は「日本ブラジル交流年」と定めた。2008年は100周年を祝うと同時に、両国の今後100年の交流に向けた土台を構築することを目的に、さまざまなイベントが開催されている。

「日本ブラジル交流年」名誉総裁にご就任された皇太子殿下がご臨席された今回のリサイタルでは、ブラジル出身のチェリストアントニオ・メネセス氏により、シューマン、ブラームス、メンデルスゾーンに加え、ブラジルを代表する作曲家ヴィラ＝ロボスの『ブラジル風バッハ第2番』などが演奏された。



第18回 新日鉄音楽賞 贈呈式・受賞記念コンサート

7月18日、(財)新日鉄文化財団 紀尾井ホール(東京・千代田区)で、「第18回新日鉄音楽賞」の贈呈式と受賞記念コンサートが行われた。満席となった800席のホールは、受賞者に送られる惜しみない拍手に包まれた。



受賞記念コンサートで演奏する上原彩子氏

音楽文化の発展と音楽家の一層の活躍を支援する 新日鉄音楽賞

新日鉄音楽賞は、1990年に新日鉄創立20周年と新日鉄提供のラジオ番組「新日鉄コンサート」放送35周年を記念して創設されたもので、日本の音楽文化の発展と将来を期待される音楽家の方々の一層の活躍を支援することを目的としている。同賞では、将来を期待される優れたアーティストを対象とした「フレッシュアーティスト賞」と、クラシック音楽をベースにした活動を行っている個人を対象に、演奏家に限らず音楽文化の発展に大きな貢献を果たした方に贈る「特別賞」の2つの賞が設けられている。

受賞者に聴衆から盛大な拍手

第18回目となる今回は、フレッシュアーティスト賞をピアニストの上原彩子氏、特別賞を写真家の木之下見氏が受賞した(受賞者インタビューはP7～10)。

上原氏は、2002年の第12回チャイコフスキー国際コンクール優勝後、さらなる研さんを重ね、音楽家としての資質を高めたここ数年間にわたる充実した活躍ぶりと、その演奏における音楽の内容の豊かさが選考委員一同に高く評価された。

木之下氏はフリーの写真家として、クラシック音楽をテーマに40年以上にわたり音楽家や劇場、ホールなどを撮



クラシック音楽をテーマとした写真について語る木之下見氏

り続けてきた。卓絶したカメラアイによって、演奏そのもののや音楽家の本質的な面を浮かび上がらせた彼の作品は、クラシック音楽界を側面から支えるものであり、その功績が高く評価されたことが受賞につながった。

贈呈式では、(財)新日鉄文化財団理事長の三村明夫(新日鉄代表取締役会長)が挨拶し、受賞者に表彰状とトロフィー、賞金を贈呈した。受賞記念コンサートでは、上原氏がプロコフィエフのバレエ「ロメオとジュリエット」からの小品op.75、グリークの抒情小曲集、リストのスペイン狂詩曲などを演奏し、聴衆は盛大な拍手を送った。



三村理事長より表彰状・トロフィー・賞金が贈呈される